

令和5年度 授業創造プラン

1年

教科	児童の実態（Gテストを含む）	具体的な取組【評価の観点】
国語科	- 平仮名の読み書きは定着してきている。 - 長音、拗音、促音、撥音を使った言葉の表記ができない児童がいる。 - 大事なことを聞き落とさずに聞くことが苦手な児童が多い。 - 自分の伝えたいことを文で表現することは個人差がある。	「かたかなをみつけよう」や「かずとかんじ」の単元では、片仮名や漢字にも興味をもたせ、正しく読み書きできるようにする。また、絵日記など文章を書く機会をもたせる。 「しらせたいな、見せたいな」「てがみでしらせよう」の単元では、書いた文章を音読させ、読み返す習慣を付けて表記の間違いを正させる。 「ききたいなともだちのはなし」の単元では、話を聞いてより知りたいことや感想を言わせることで、大事なことを落とさず聞けるようにする。 「しらせたいな、見せたいな」の単元では、知らせたいことを短い文で短冊カードに書く。さらに短冊カードを並べ替え、書く順番を考えさせる。 - クロームブックのミライシードを活用し、平仮名・片仮名・漢字の読み書きの定着を図る。
算数科	10までの数の構成・分解やたし算・ひき算の意味や計算の仕方は、おおむね理解できているが、数え違いがある。また個人差が大きい。 - たし算、ひき算の場面での立式が難しい。 - 具体物の操作をしたり、絵を見たりすると答えは分かるが、立式できない児童がいる。	- 宿題や授業の中などでプリント、ドリルを活用して定着を図る。 - クロームブックのミライシードを活用し、復習を行う。 - 順序立てて考えるために言葉の式を掲示し、意識させる。 ひき算の場合は【最初の数】－【減った数】＝【残り】 【大きい数】－【小さい数】＝【違い】 - クロームブックのミライシードを活用し、復習を行う。 - ペア学習やグループ学習を取り入れ、共に学ぶ力を高めることで自分の考えを表現する場を設定し、思考力、コミュニケーション能力を向上させる。